



キャンパスニュース

C A M P U S N E W S

2011

12

VOL.39

静岡理科大学 開学20周年記念式典



特集

- 開学20周年記念式典開催報告
- 開学20周年記念事業報告

開学20周年記念 式典を挙行

11月18日の「開学20周年記念式典」において、荒木学長から「20周年を契機に、より明確な価値基準を持って将来に向けて大きく躍進したい。」との挨拶がありました。

開学20周年記念式典の開催

11月18日（金）に掛川グランドホテルにおいて、「開学20周年記念式典」を挙行了しました。
これに先立ち、10月21日（金）に「開学20周年記念教職員対象祝賀会」を、10月30日（日）に「開学20周年記念学生対象講演会」をそれぞれ開催しました。

開学20周年記念式典

11月18日（金）に、「開学20周年記念式典」を掛川グランドホテルにおいて挙行了しました。

当日は、川勝平太静岡県知事、原田英之袋井市長、鈴与株式会社鈴木与平代表取締役社長をはじめ、行政機関や県内外の企業、大学、高校、中学校などから約250名の方々にご参加いただきました。



記念講演では、日本から打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ」の帰還とそれを取りまく人達を描いた映画「はやぶさ」の舞台となったJAXA（独立行政法人宇宙航空研究開発機構）において、「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーを務められた宇宙科学研究所の川口淳一郎教授から、「『はやぶさ』が挑んだ人類初の往復の宇宙旅行、その7年間の歩み」と題し、講演をいただきました。「はやぶさ」

が、打ち上げられる前の計画段階から帰還したその後において、チームの置かれていた状況や、様々な葛藤、トラブルの体験などを楽しくお話いただきました。

記念祝賀会においては、海外提携校の韓国 DAEGU 大学の李周萬ロシア語学科教授兼国際交流処長と中国計量学院の俞晓平副学長からご祝辞を賜った後、本学の20年間のあゆみと近況について、ご報告させていただきました。最後に全員で学歌斉唱を行い、盛会のうちに終了しました。

20周年の節目にふさわしい厳粛な式典となり、これからの更なる飛躍を誓う一日となりました。



川口淳一郎教授

遠州灘

平成23年は3月に起きた大震災という好まざる形で日本、ひいては世界の歴史に刻まれる事になりそうである。この凄惨な一連の出来事の中で数少ない正面を考えるとすればエネルギーに関して多くの人々が関心を持った事が挙げられる。「電気は商品」である以前に「限りある資源」という基本を思い出させてくれた。

“節電”を考えてみよう。エアコンの温度調整や、まめな消灯は大切ではあるが電気を使わない生活には戻れま

い。他方で発電やモーターの研究などエネルギー効率を上げること立派な節電である。大学は教育機関であると同時に新しい技術を発明する場でもある。この未曾有の大災害が後に「新しいエネルギー技術が発明される大きな転機であった」と語れるよう未来の技術者・研究者である学生諸君にも大いに期待したい。(T)

遠州灘

開学20周年記念教職員対象祝賀会

10月21日（金）に本学食堂にて教職員対象の「開学20周年記念祝賀会」を開催しました。当日は、教職員75名が参加しました。安広報・式典小委員長の開式の辞で始まり、荒木学長、澤田理事の挨拶、出口理工学部長の乾杯と続き、20年の歴史を知る教職員を代表して、宮岡教授、河村企画室調査役、岡部図書課長代理、菅沼総合情報学部長が各々挨拶を行いました。また、荒木学長からこの4名に対し記念品の贈呈がありました。

食堂運営業者の株式会社ヤタロー様から、記念式典ということで、豪華な料理を提供頂き、盛況に催すことが出来ました。



開学20周年記念学生対象講演会

大学祭2日目の10月30日（日）に「開学20周年記念学生対象講演会」として、元Jリーガーでサッカー解説者の宮澤ミシェル氏が講演を行いました。「がんばれ若者 - 苦しいときにどう立ち向かうか - 」と題して、予定の時間を越えるほどの熱のこもったお話をいただきました。学生時代に攻撃的なポジションから守備的なポジションへ変更を命じられて努力した経験や、日本国籍を取得して日本代表候補に選ばれるまでの苦労などを当時のサッカー事情を交えて講演され、来場者は勇気や元気をいただきました。

講演に先立ち、荒木学長より挨拶があり、その後、学生代表に開学20周年記念品が手渡されました。



宮澤ミシェル氏

学旗の制作

開学20周年記念事業の一つとして、学旗を制作し、8月19日（金）に完成しました。

西陣織の総手刺繍の学旗（H800mm × W1200mm）は、本学のスクールカラーであるエンジ色を基調とし、大学名とロゴをあしらった趣きのあるものになりました。

10月21日（金）に開催しました「開学20周年記念教職員対象祝賀会」、11月18日（金）に開催しました「開学20周年記念式典」でお披露目し、

今後大学で行われる入学式や卒業式等の式典を挙行する際に壇上に飾られ、大学の発展や学生達の活躍を見守ることになります。



開学20周年記念誌の制作

開学20周年を記念して「静岡理科大学 開学20周年記念誌」を制作しました。荒木学長の「地域と共に輝く未来を築く」と題した挨拶にはじまり、本学に関係のある方々からのご祝辞や、開学からの20年間のあゆみを写真を交えながら振り返る内容となっています。この記念誌は開学20周年記念式典においてご来賓の皆様にご配布しました。



開学20周年記念事業 キャンパス整備報告

開学20周年記念事業として進めてきましたキャンパス整備（図書館のラーニングコモンス化、LL教室の整備、食堂のリニューアル、先端機器分析センターの完成、テニスコートの夜間照明設備の設置、坂口実験場の開設）が完了しました。整備内容についてご紹介します。

図書館のラーニングコモンス化

「図書館のラーニングコモンス化」の改修工事も無事終了し、9月23日（金）にリニューアルオープンすることができました。これにより、これまでの静かな空間の他に、学生たちがディスカッションをしたり情報を発信したりする共同学習の場（ラーニング・コモンス）が新たに



に加わり、より活発で明るい学習空間となりました。グループ学習やプレゼンテーションができるグループワークルームやプレゼンテーションルーム、ちょっとお茶を飲みながら休憩できるリフレッシュコーナー、集中して勉強したい方のための個室ブースなど、多目的に活用できる施設・設備を備えた滞在型図書館となりました。



LL教室の整備

オーディオ機器を使って英語を学ぶためのLL教室の映像・音声配信設備は、開学時に設置したもので、経年変化が激しく、機能しない端末もある状況でした。このため、端末機を撤去し、移動機を配置して、無線LANで語学教材を配信できるようにしました。9月20日（火）に完成し、新規に、学生用3人掛机27台、椅子81脚、フロアカーペット、電源・LAN配線を設置しました。



食堂のリニューアル

開学20周年記念事業の一環として、平成21年9月と平成22年4月の2回に分けて食堂のリニューアルを行いました。食堂内の改装や営業時間の拡大、学生証によるカード支払いシステムの導入など、利用しやすい食堂を目指し、様々な改善を行いました。食堂名も公募により「しすとらん」に決定しました。

リニューアルから約1年半が経過しましたが、学生の憩いの場として活用されています。学生からは「以前よりも明るい雰囲気になったので居心地がいい」、「みんなで集まる場所として活用できるようになった」などの感想もあり、大変好評のようです。

今後も学生を交えた「学生食堂定例会議」や今年8月から食堂内に設置した目安箱から利用者の意見を吸い上げ、快適な食堂造りを進めていきます。



先端機器分析センターの完成



本学の先端研究開発拠点として新設された「先端機器分析センター」は、平成23年3月に竣工を行い、既設機器の移設と新機器の導入を順次行ってきました。センター建設に合わせて導入を予定していた微量な元素を分析し、画像化する「電子マイクロアナライザ」や食品系の分析装置などの全機器が今年の12月末までに揃い、施設・設備の整備が全て完了しました。今後はこれらの施設・設備を、研究プロジェクトの推進及び本学の教育・研究の進展のために活用していきます。



テニスコートの夜間照明設備の設置

本学のテニスコートは学生サークル等が利用していますが、夜間照明設備が整備されていなかったため、日没後の活動が出来ない状態でした。そこで、学生のアメニティの向上等の一環として夜間照明設備の整備を行い、9月13日（火）に完成しました。テニスコート中心付近で平均約300lxとなるように、地上高約10mのコンクリート柱を2本立てて照明灯を設置しました。グラウンドの夜間照明と同様、タイマー付で消し忘れることもなく、スイッチのオンオフひとつで管理ができます。照明器具は200v高力率形の省電力タイプを選定し、虫が多い場所のため、電撃殺虫器も設置しました。

12月1日（木）には「テニスコートナイター利用式典」が開催され、荒木学長をはじめ、硬式テニス部、軟式庭球同好会、フットサルサークルの学生や教職員テニスクラブのメンバーが参加して、設置された照明のもとテニスコートでラリーを行いました。



坂口実験場の開設

機械工学科航空工学コースの科目「航空工学実験」、「航空工学実地演習」の授業で使用するための施設として、牧之原市にある富士山静岡空港の近くに「静岡理科大学坂口実験場」を平成22年4月に開設しました。授業

では、実際に学生が航空機実機を使い、基本整備技術の実習や航空機構造の学習などを行っています。施設内には、金属製グライダー、管制実習装置、管制実習ジオラマ等を備え航空工学コースの学習に使用しています。



開学20周年記念事業 平成23年度公開講座開催報告

開学20周年記念事業として、今年度は前期2回、後期3回の公開講座を開催しました。例年よりも多数の受講者があり、開学20周年に相応しい公開講座となりました。

78回 公開講座

5月28日（土）に「食料資源を科学する」をテーマに本学物質生命科学科の吉川尚子講師と東京大学の阿部宏喜名誉教授が講演を行いました。「食」や「健康」がテーマとあって女性の方を中心に104名の方が受講されました。当日は受講者から質問が飛び交うなど熱気にあふれていました。



79回 公開講座

6月25日（土）に「生活に密着したロボット」をテーマに本学機械工学科の鹿内佳人講師と宇都宮大学工学部の尾崎功一教授が講演を行いました。当日は大人に混じって小学生や中学生の姿も見られ、70名の受講者がありました。



80回 公開講座

9月24日（土）に「電気の力が車を変える」をテーマに独立行政法人雇用・能力開発機構職業能力開発総合大学の高橋久准教授（現：本学電気電子工学科教授）とヤマハ発動機株式会社技術本部研究開発統括部の村松恭行氏が講演を行いました。当日は105名の受講者があり、最近関心が高い電気自動車などの理解を深めていました。



81回 公開講座

10月8日（土）に「脳からのメッセージ」をテーマに本学人間情報デザイン学科の宮岡徹教授と自然科学研究機構生理学研究所の北田亮助教が講演を行いました。当日は104名の受講者がありました。視覚や触覚の錯覚体験が参加者に好評で、多くの方が体験を楽しんでいました。



82回 公開講座

10月22日（土）に「ITは人を幸せにする？」をテーマに本学物質生命科学科の志村史夫教授が特別講演を行いました。志村教授が執筆している静岡新聞のコラムで本講座が紹介されたこともあり、当日は雨にも関わらず150名の受講者がありました。会場は活気にあふれ、開学20周年記念事業として企画した本年度の公開講座を締めくくる素晴らしい講演となりました。



開学20周年事業 平成23年度静岡理工科大学公開シンポジウム開催のお知らせ

テーマ

環境放射線とセシウム汚染

開催日時

平成24年1月28日（土）
13:30～17:00

会場

本学学生ホール3階
300講義室

①基調講演

「セシウム汚染の現状 —いかに向き合うか—」

講師

東北大学サイクロトロン・
ラジオアイソトープセンター・
名誉教授・研究教授 馬場 護氏

②パネルディスカッション「放射能汚染とは」

パネリスト

馬場 護氏（基調講演 講師）
西村 欣也氏（本学産業医・学校医 西村医院 医院長）
豊田 富士雄氏（袋井商工会議所 会頭）
志村 史夫（物質生命科学科 教授）

コーディネーター

吉田 豊（物質生命科学科 教授）

☑ キャリア支援課だよ

遠方への就活学生に対する交通費補助について

大手企業や情報系企業の殆どが首都圏などに集中しているため、学生がそれらの企業の説明会や就職試験を受験しようとする、多額の交通費等がかかります。また他県から本学に入学した学生が、Uターン就職するために地元企業で就職活動をする場合にも交通費がかかります。

本学では、遠隔地で就職活動をする学生や、そのご父母の皆様の負担を少しでも軽減するために、「遠隔地就職活動補助金制度」を7月からスタートしました。対象は4年生と大学院2年生です。

就職活動を行う地域（静岡県内や愛知県の一部地域は、支給の対象にはなりません）により、往復の交通費が最大5千円、宿泊施設を利用した場合には、宿泊費が1泊最大4千円（2泊が限度）等

を支給します。原則1人3回まで利用できます。

支給条件や手続き方法についてはキャリア支援課へご相談ください。

（補助対象期間中でも補助予定総額を超えた時点で補助を打ち切ることがあります。）

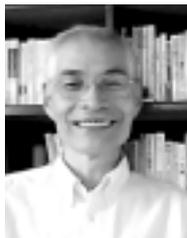
現在この制度により、学生が遠隔地就職活動を活発に行い内定も出ています。

12月からは3年生や大学院1年生に対しても対象を広げています。



☑ 学務課だよ

新しいカウンセラー紹介



今年度から選択理論心理士の橋本秀夫先生が週2回来学しています。

橋本先生はヤマハ発動機株式会社にて、長年、設計者としてバイクの開発に携わり、有名なRZの車体設計も手掛けられました。

大切な人と良い人間関係を築くことの大切さを広めたいと、選択理論心理士になりました。

最近では掛川市でのお父さんのための出前講座

や、新入社員研修・生涯学習講演などを通して、人間関係やチームワークの向上にご尽力されています。講座や研修では「セルフコントロールが上手くなって、こころの健康を保ってください。」ということをお話されています。

行動選択に迷ったら、橋本先生の学生相談をご利用ください。

橋本先生の相談日は...

毎週 月・火 AM9:00～11:00 となります。

人事異動

●平成23年10月1日付採用

理工学部 電気電子工学科
教授 高橋 久



専門分野 電子回路工学、制御工学、アクチュエータ制御システム

略歴 職業訓練大学校第一電気科卒、博士（徳島大学）。職業能力開発総合大学校電気システム工学科准教授を経て本学教授に就任。

趣味 音楽鑑賞、ドライブ

入学式

4月3日（日）に、「平成23年度入学式」を挙行し、学部生、大学院生合わせて441名が入学しました。新入生を代表して、総合情報学部の松本凌さんが東日本大震災の状況を踏まえ「静岡の地で何を学び、何ができるか考えたい。社会貢献できる人間となるよう努力します。」と宣誓しました。



総合防災訓練

5月27日（金）に、本学にて「総合防災訓練」を行いました。訓練には学生、教職員ら約530名が参加し、避難訓練や三角巾実技訓練などを実施しました。また、グラウンドにて消火活動も体験しました。



チャレンジハイク

5月21日（土）に、毎年恒例の「チャレンジハイク（クラブ連合委員会主催）」が開催されました。晴天に恵まれる中、大学 法多山 愛野公園 可睡斎 泉公園 大学の約20kmに学生80名がチャレンジし、全員完歩しました。



オープンキャンパス

7月24日（日）、8月6日（土）・7日（日）・27日（土）の4日間、オープンキャンパスを実施し、高校生950名、保護者276名の延べ1226名の参加がありました。各学科ごとに体験型プログラムや展示ブースが用意され、多くの来場者に研究内容を紹介することができました。



市民体験入学

9月4日（日）本学にて「市民体験入学」を開催し、県内各地から208名が参加されました。全体講義では、元NHKアナウンサーの宮川泰夫さんが講演を行いました。選択講義の座学講座では本学物質生命科学科の齋藤准教授、人間情報デザイン学科の秋山教授が、体験講座では機械工学科の吉田講師、電気電子工学科の波多野准教授、物質生命科学科の常吉教授、コンピュータシステム学科の飯倉講師、人間情報デザイン学科のMcNabb准教授、情報センターの高林課長、酒井職員が、それぞれ講義を行いました。



小中学校理科実験講座

9月9日（金）に袋井北小学校、10月6日（木）に袋井南中学校、10月20日（木）に笠原小学校、10月27日（木）に高南小学校で、袋井市教育委員会との連携事業「小中学校理科実験講座」を実施しました。本年度で6年目を迎えた本事業では、袋井市の掲げる「心ゆたかな人づくり」の具現化を目指しています。



大学祭

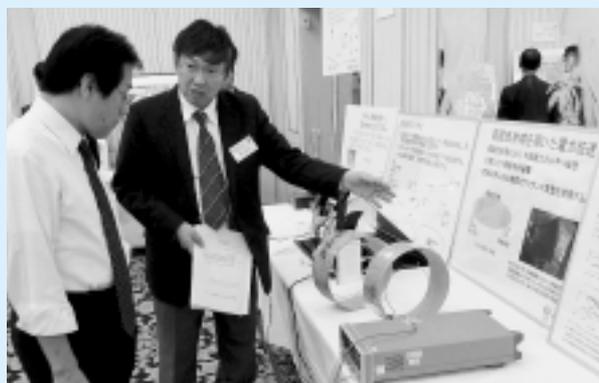
10月29日（土）・10月30日（日）に「大学祭 SISTIVAL '11（大学祭実行委員会主催）」が開催されました。前年度に続き、「ものづくりフェスタin袋井」も合わせて開催されました。1日目には水 Rocket 体験、電気自動車レース、ロボットサッカー大会、移動動物園などのイベントがあり、2日目には宮澤ミシェルさんによる講演、カミナリグモのスペシャルライブなどが行われました。多数の来場者が訪れ、思い出に残る大学祭となりました。



産学官連携フォーラム

11月22日（火）に、ホテルクラウンパレス浜松にて「産学官連携フォーラム」を開催しました。当日は約150名の参加者が来場されました。特別講演としてトヨタ自動車株式会社技術統括部の岡島博司氏が「サステナブルモビリティとスマートコミュニティ」と題して講演を行いました。

また、本学教員による研究事例発表やパネル展示による研究紹介もあわせて行いました。



スポットライト

がんばれ!理工科大生



中村 通秀 (大学院材料科学専攻2年)

現在、行っている活動について

ネオジム磁石の研究をしています。ネオジム磁石は、とても強力な磁力を持つため、HV(ハイブリッドカー)の駆動用モーター材料として欠かすことができない磁石です。しかし、熱に弱いため、耐熱性を高める目的でレアアースのDy(ディスプロシウム)という元素が添加されています。Dyは産地が限定されており、さまざまな理由で将来安定的に輸入し続けることは容易ではありません。そのため、ネオジム磁石の省Dy化の技術開発が必要とされています。私の研究もこの一環です。

大学院で得たもの

学会や研究活動を通して他大学や企業に知り合いが増えたことは、今後の研究活動においても大きな強みです。また、失敗したら後がない状況で自分を追い込んで試験に取り組むことができました。かなり辛かったですが、最終的にはしっかりと結果を残すことができました。この経験は今後、壁に直面した際、それを乗り越えていくための自信になるだろうと思います。大学院生活で、楽をせず、たくさん苦労できたことが一番の財産です。

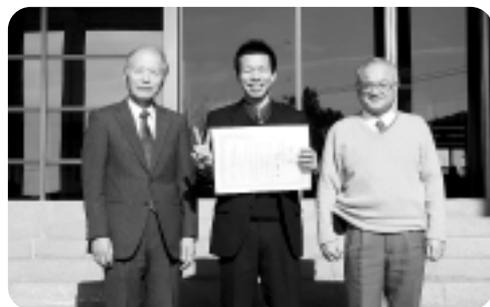


今後の目標

多くの方に支えられ、他大学大学院の博士後期課程への進学が決まりました。本当にありがとうございます。これからは、環境が大きく変わり、戸惑うことも多いと思いますが、貪欲に多くの知識や技術を吸収していきたいと思います。大学院修了後は、自動車会社でHVやEV用の磁石の研究をしたいです。

学長特別表彰・学生部長表彰

12月21日(水)に、優れた活躍や学生の模範となる顕著な成果を上げた学生を表彰する「学長特別表彰・学生部長表彰」を行いました。受賞者は次の通りです。



学長特別表彰

受賞者 中村通秀 (大学院材料科学専攻2年)

受賞理由 マグネティックス技術委員会
研究奨励賞を受賞したことによる。



学生部長表彰

受賞者 個人 石川貴章 (機械工学科3年)
団体 静岡理科大学Aチーム

受賞理由 第9回静岡県下学生弓道選手権大会・夏季大会において男子個人準優勝(石川貴章)と男子団体第3位(静岡理科大学Aチーム)の成績を取めたことによる。

教職課程による教育実習の実施

本学では2008年度より教職課程を導入し、今年度、1期生12名が修了する予定です。その1期生が初めて高校現場で教育実習を行いました。実習を終えた学生の感想を紹介します。

教育実習を振り返って

理工学部 物質生命科学科 4年 廣瀬 智子

私は、本学教職課程の1期生として、6月に母校の静岡農業高校へ教育実習に行きました。実習では主に理科(生物)の授業を担当しました。

実習初日は緊張や不安でいっぱいでしたが、先生方や生徒の皆さんに助けられ、充実した実習をすることができ、ほっとしています。

今回の教育実習では、授業のほかにHR活動などの学級運営に携わり、職員会議や部活動にも参加しました。特に強く感じたことは、授業は教師と生徒が共同で作上げるものだということです。説明と板書だけの授業では生徒たちは退屈そうでしたが、生徒に発問を促すと授業が活気づき、笑顔が生まれました。この時、生徒を主体に発言しやすいような授業づくりをすることが大切だと実感しました。

教育実習で学んだことを今後の教職活動に活かし、是非、教壇に立ちたいと思いました。



廣瀬さんは、平成24年4月から飛龍高校(沼津市)で教員として勤務(内定)。

教育実習を終えて

総合情報学部 人間情報デザイン学科4年 鷹取 雄太

私は、6月に2週間、母校の浜松城北工業高校で教育実習をさせていただきました。

最初の1週間は、いろんな教科の先生方の授業を見学して、授業展開を学びました。

後半の2週間目からは、実際に独り立ちして授業を行いました。教壇に立った時には緊張してしまい、準備万全で臨んだつもりでしたが、なかなかうまくできませんでした。しかし、毎回、授業後に反省会を行い、指導教諭や同じ教育実習生のアドバイスを受けたことで、最後の研究授業では、それなりにいい授業を行うことができました。

教育実習は、授業をはじめ学習指導案づくり、学級運営、部活動指導など、とても忙しく大変でした。しかし、いざやり終えてみると、今までにない充実感を味わうことができました。とても貴重な経験ができ、最後まで教職課程を続けてきてよかったと思います。



優秀賞表彰式

5月17日(火)に1年間の学業成績が優秀であり、人物面においても本学学生として模範である学生に贈られる「静岡理科大学優秀賞」の表彰式を行いました。受賞者29名に学長より表彰状と副賞が授与されました。受賞者は次の通りです。



機械工学科

2年生 青木 慎弥
高橋 佑輔
3年生 松野 圭佑
小林 一輝
4年生 神津 堯志
鈴木あゆむ

電気電子工学科

2年生 袴田 達弥
野崎 裕貴
3年生 池谷 泰輝
橋本 貴史
4年生 石井 佳祐
中村 英憲

物質生命科学科

2年生 河原崎有紀子
内山 友太
3年生 増田 啓輔
中山 歩美
4年生 岩井 利明
鈴木 通恭

総合情報学部

2年生 鈴木 結貴
深澤孝太郎
土井 慎二
増田 純一
3年生 土屋 孝則
内藤 一步
3年生 金原 宏亮
畑中 春輝
4年生 山本 晃文
高木 勇気
吉筋 良平



野球部連敗ストップ



7年前の勝利を最後に勝利から遠ざかっていた本学硬式野球部が、見事連敗をストップさせました。



硬式野球部は2011年度静岡学生野球春季リーグ戦において7年ぶりに勝利し、連敗をストップさせました。7年前に勝利した当時、私は大学3年生でした。その時からずっと連敗を重ねてきたのでその記録が伸びるほど現役部員にかかるプレッシャーは大きくなっていきました。しかし、そのプレッシャーを乗り越え見事連敗ストップを果たした部員たちの成長がとても嬉しかったです。今後の目標は勝ち点奪取、最下位脱出と一段一段進んでいきたいですが最終的にはリーグ優勝、そして全日本大学野球選手権大会(神宮球場)に出場することが目標です。連敗記録更新中も「いつか勝てる」

と思い頑張ってきました。今後は「いつか神宮に行ける」と思いながら、部員とともに頑張っていきたいと思いません。「目指せ神宮出場!!」

硬式野球部監督 坂田 義之(事務局 総務部 入試広報推進課)



同窓会 だより

ホームカミングデーの開催

10月30日(日)の大学祭2日目に「第11回ホームカミングデー」を開催しました。

当日は、卒業生やご家族、教職員など約250名の方が参加され、旧友や恩師との再会を楽しんでいました。今回は、「大学について、もっと知ってもらおう」という趣旨のもと、「大学 × ゲーム」を実施しました。また、恒例の大抽選会についても、大いに盛り上がり、親交を深め合うホームカミングデーとなりました。なお、今回ご多忙の中にも関わらずホームカミングデーの企画・開催にご助力いただいた同窓会役員の皆様にお礼申し上げます。



後援会 だより

父母懇談会の開催

10月29日(土)に「父母懇談会」を開催しました。大学祭初日で賑う中、245名の方にご参加頂きました。全体会では、榎林優後援会会長並びに荒木学長の挨拶の後、キャリアコンサルタントの相田一成氏をお招きし、「厳しさを増す就職活動」と題した講演を頂きました。続いて「学科別懇談会」では本学教員から、学科の教育内容・就職状況等の説明を行いました。午後から実施した「個別面談」では、希望された99名の方が助言教員からの説明に熱心に耳を傾けていました。保護者の皆様からもご意見を伺うことができた、貴重な時間となりました。



編集後記

本号の前半は開学20周年関連の式典・キャンパス整備・イベントなどの特集記事、後半は恒例のイベントストリートや学生・教職員・同窓会・後援会関連という通常記事になっています。

その中で、第1期教育課程修了間近の学生による教育実習の感想から、本学の新たな光・新たな芽吹きが感じられました。これからさらに大きく育って輝きたいものです。(K)

静岡理科大学キャンパスニュース

平成23年12月31日発行

企画・編集・発行 / 静岡理科大学 大学広報委員会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

<http://www.sist.ac.jp>